



MYOKOボランティア養成キャンプ

実施期間：令和7年5月17日(土)～18日(日)



目的・趣旨

青少年の自立や健全育成、社会参加を促進する上で重要な役割を果たす青少年ボランティア活動を担う法人ボランティアの養成を目的とし、講義や演習、野外活動体験等の研修を通して、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

事業概要

【参加者数】 29名（大学生29名）

【実施内容】 国立青少年教育振興機構ボランティア養成共通カリキュラムに基づき、各種講義や演習を実施した。（以下が主なもの）

□（講義）青少年教育 □（講義）ボランティア活動の意義

□（講義・演習）安全管理 □（講義・演習）ボランティア活動の技術

【外部指導者】（講師） 新保 絵梨 氏（NPO法人くびき野NPOサポートセンター 職員）

（講師） 頸南消防署員

（法人ボランティア） 8名

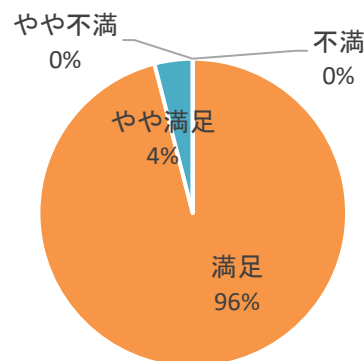
事業のポイント

- 近隣大学と連携して学外実習等に位置づけ、参加した学生が単位取得できるようにした。
- 先輩となる法人ボランティアが参加者の活動を支援し、法人ボランティアとしての活動のイメージが付きやすいようにした。

成果

- 参加者の事業全体を通じた満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて100%となった。
- アイスブレイクや朝のつどいを先輩ボランティアが中心となって行ったことにより、参加者同士や先輩ボランティアとの関係が深まった。
- 2日目の「ボランティア活動の意義」では、ボランティアの歴史や活動をする際のポイントを学ぶことでより実践に近い学びを得ることができた。
- ボランティアの活動紹介では、令和7年度に開催する教育事業についてボランティアから説明をすることで参加者の「参加してみたい」という気持ちを引き出すことができた。

参加者満足度



事業の様子



アイスブレイク



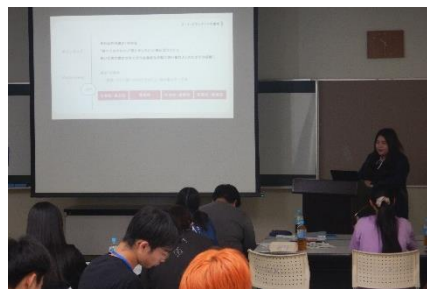
青少年教育について



安全管理で実施した普通救命講習



野外炊事



ボランティア活動の意義



集合写真

詳しい様子はこちらより！



<https://youtu.be/7PBDoIVCaW0>

自然の家 公式動画(YouTube)
妙高ミミチャンネル



参加者の声

- 宿泊や料理を一緒に作ったりするだけでは体験できないものを得ることができた二日間でした。集団行動の難しさ、楽しさを改めて確認することができたとともにボランティア活動への興味がより強いものになりました。
- これから参加するボランティア活動に対してさらに、意欲が湧きました。

課題

- アンケートの「この事業をどのように知りましたか」という問いに対して、「人からの紹介」が過半数であり、「ポスター・チラシを見て」の回答は極めて少なかった。HPやSNSでの広報が課題である。
- 継続的なボランティアへの参加を促すために研修会だけではなく妙高で活動しているボランティアの生の声を聴くことができる交流会の開催を検討していきたい。